2015

協会ニュース　増刊号

吉野ヶ里歴史公園（神埼市・吉野ヶ里町）
提供：一般社団法人 佐賀県観光連盟

平成 27 年 3 月 16 日発行

全国公立高等学校事務職員協会

http：//zenjikyo.jimdo.com/

事務局：東京都立小山台高等学校

電　話：03-3714-8155

東京都品川区小山台 3-3-32

第６８回全国公立高等学校事務職員研究大会（佐賀大会）

●目　的

学校における教育諸問題について研究協議し、学校事務の合理化を図り、学校事務関係職員の資質を高め、学校教育の目的遂行に寄与する。

●期　日

（１）全国理事会　平成２７年７月２２日（水）
（２）研 究 大 会　平成２７年７月２３日（木）　～　平成２７年７月２４日（金）

●会　場

佐賀市文化会館（全体会・分科会）

●日　程

・平成２７年７月２２日（水）　１４：１０～　１７：００
全国常任理事会、全国理事会

・平成２７年７月２３日（木）　１２：１０～　１７：３０
開会式、表彰式、文部科学省講話
全体会
・ミニコンサート
出演者　増井　ゆかり氏　江口　美佳子氏
末永　文美香氏
佐賀県出身の音楽家
・記念講演
講　師　藻谷　浩介氏
株式会社日本総合研究所調査部
主席研究員
演　題　「国家百年の計は『地方』にあり」
～人口減少と学校統廃合～
総会

・平成２７年７月２４日（金）　９：２０～　１６：２０
分科会、閉会式

月日＼時間	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	50	20　50	50	10	10　20	20　30	40	20　30	30
7月23日（木）佐賀市文化会館			受付	開会式 表彰式	休憩	文部科学省講話	休憩	全体会 ・ミニコンサート ・記念講演	休憩	総会
7月24日（金）佐賀市文化会館	受付	分科会（前半）		休憩	分科会（後半）			休憩・移動	閉会式

第６８回全国公立高等学校事務職員研究大会 佐賀県実行委員長 樋口 春彦

（佐賀大会のロゴマーク）

第６７回岩手大会が、震災を乗り越え開催されたことに対しまして、心より敬意を表しますとともに、感動あふれる大会に参加させていただき感謝申し上げます。

そして、第６８回全国大会が、平成２７年７月２２日から２４日まで佐賀県で開催されることとなりました。今、実行委員会では、参加される皆様が笑顔で帰っていただけるように準備を進めているところです。

さて、学校事務を取り巻く状況は、事務職員が少なくなる中、事務はより広範に、より複雑になってきています。このような状況にあって、私たちは、より正確で、より迅速な事務処理が求められる時代になりました。そこで佐賀大会では、「コロンブスの卵～発見、驚き、そして感動～」を大会コンセプトに据えて、私たち事務職員が自分自身の潜在力をもう一度見つめ、再確認し、直面する課題の解決に向けて取り組んでいけるヒントを持ち帰っていただける大会になればと願っています。

佐賀は、北の玄界灘、南の有明海に挟まれた風光明媚な自然豊かな県であると同時に歴史と文化に彩られた県でもあります。佐賀には、鍋島段通、佐賀錦、肥前名尾和紙など匠の技が光る伝統工芸と豊かな食文化があります。佐賀には、時がゆっくりと流れる自然があります。何にもない田んぼのあぜ道に立てば、忙しい毎日の中、見つけることができなかった自分を再発見して、そして、やさしく包んでくれる自然がそこにあります。有名な観光地では味わうことができない感動を体験できるかも知れません。佐賀大会では、研究大会で精一杯学んで、温泉で疲れを癒やし、史跡を訪れ佐賀の歴史に思いを馳せて、「グルメ」「ショッピング」「観光」でいろんな佐賀を発見してもらえればと思っています。

佐賀県の事務職員一同、多くの皆様と佐賀の地でお会いできることを楽しみにしております。

全　体　会　　記念講演

講師　藻谷　浩介氏（もたに　こうすけ）

演題　「国家百年の計は『地方』にあり」

～人口減少と学校統廃合～

写真　藻谷　浩介氏
© 薈田（わいだ）純一氏

「略歴」山口県出身　50 歳
株式会社日本総合研究所調査部主席研究員、日本政策投資銀行地域企画部 特任顧問、NPO 法人 地域経営支援ネットワーク理事長
平成合併前 3200 市町村のすべて、海外 70 ヶ国をほぼ私費で訪問し、地域特性を多面的に把握。地域振興や人口成熟問題に関し精力的に研究・著作・講演を行う。

「著書」　『里山資本主義　日本経済は「安心の原理」で動く』角川 one テーマ 21（NHK 広島との共著）、『藻谷浩介対話集 しなやかな日本列島のつくりかた』新潮社、『経済成長がなければ幸せになれないのでしょうか』学芸出版社、『金融緩和の罠』（集英社新書）共著、『デフレの正体　経済は「人口の波」で動く』角川 one テーマ 21。その他、著書多数

第１分科会　学校組織マネジメント　― 学校経営への参画 ―

＜午前の部＞

〇研究発表

（１）道立学校事務改善完成後の学校事務職員の役割と目指すもの

北海道岩見沢高等養護学校　主任主事　室谷　和子

北海道夕張高等学校　主任主事　渡井　芳幸

北海道では「事務改善」という旗印の下、道立学校運営支援室、教職員事務センターという組織が開設され、学校事務職員の業務内容が大きく様変わりしました。学校事務を集約化して効率化や省力化を図り、業務軽減することによって教員との連携と学校運営の機能強化を図るという当初目標がどこまで進展したか、その中で学校事務の現状と課題、我々学校事務職員が果たすべき役割とは何かを考え、機能強化についての方策を検証します。

（２）震災時における県立学校の対応について

～想定外にしないための 72 時間シミュレーション～

千葉県立流山高等学校　主事　黒石　真梨

千葉県立流山北高等学校　主事　宮地　泰子

近い将来、東京を中心として大きな地震が発生する可能性が高いとされています。都心への通勤圏に位置する当地区でも多くの避難者が来校することが考えられますが、備蓄品やマニュアルの整備が進んでいない学校も多くありました。

この現状を踏まえ、問題点を洗い出すべくシミュレーションを行い、その対策を検討しました。各学校で備えをすすめていく契機になれば幸いです。

（３）はじめての学校現場　～引継書の必要性～

大分県立大分舞鶴高等学校　主査　森下　真

大分県立三重総合高等学校　主査　伊東　寿

大分県立宇佐産業科学高等学校　主事　岩男　公子

大分県では、行政職採用一本化となり、ここ数年で事務室人員の構成に大きな変化が見られるようになった。学校現場に勤務する県下 158 名の事務職員のうち 49 名が行政機関等から「はじめての学校現場」を経験している。そんな方々にアンケートを実施し､浮き彫りになったこれまでの学校現場での慣習を見つめ直す。その一つとして「引継」にスポットをあて、知っていて当然の引継書から、はじめての方にも対応できる引継書を考え、必要性を検証する。

＜午後の部＞

１　基調講演

仮　題　　「私たちはどんな角度から評価されるのか？
また、どんな角度から評価されたい？」

講　師　　株式会社　ゼフラッグ　代表取締役　中村　新

２　対談・討議

テーマ　　「学校評価って？事務室はどこを評価されたい？」
～学校評価（事務室評価）っておもしろかかも？～

対談者　　株式会社　ゼフラッグ　代表取締役　中村　　新

熊本県立濟々黌高等学校　審議員　田中 秀実

長崎県立長崎南高等学校　主任　小森 誠之

佐賀県立致遠館高等学校　主査　新水 佳織

３　問題提起

近年保護者、地域住民等の学校に対する要望と説明責任の増大、個人情報保護や施設上の安全管理などの危機管理能力の一層の向上が求められるなど、学校に対する期待は変わりつつある。しかし、学校を取り巻く環境は、予算の大幅な削減、職員数の削減などますます厳しくなっている。このような状況の中で、私たちはどんなに予算や人員が削減されても、仕事が削減されるわけではないのであるが、削減前と同じような、いや更なる結果を求められている。このため、学校に、事務室に対する期待・要望に対する結果を以前にも増して残すために事務を改善し、効率的な手法をみんなで知恵を出し合って考えていかなければならない。それには、生徒、保護者、地域が求めているものが理解できなければ適切な学校運営はできない。この求めているものが評価の基準となるものであり、これを的確に捉えることにより積極的に学校経営へ参画していくことができる。そして、評価されたことを学校運営に活かし、業務を改善することに学校評価の意義がある。また、評価が良くても悪くても適正に評価されることで、事務職員一人一人に意識や能力の向上につながっていく。

私たち事務職員は予算・管財など事務的作業を通じて学校経営のすべてに関わっており、学校運営をする中で重要な位置を占めている。そこで、私たちはどのように外部から評価されているのか、評価されない部分があるとすればそれはどの部分なのか。民間有識者を交え、外部からだからこそ見えてくる学校・事務室像を検証し、評価を学校経営に参画するための材料としてどう捉えれば良いか討議を行う。

４　討議の３本柱

・学校外、学校内或いは事務職員から見た事務室評価
・適正に評価されるための情報発信は必要か
・地域・保護者、教育職員による事務室評価と事務職員が考える評価とが乖離している中で、外部評価を学校経営参画にどう活かすか

第２分科会　業務の改善と効率化　― 実践と提案 ―

＜午前の部＞

〇研究発表

（１）「事務提要のデジタル化」について

宮城県石巻高等学校　主事　阿部 泰治

宮城県小牛田農林高等学校　主事　阿部　寿幸

宮城県古川工業高等学校　主事　菅　　貴之

本協会で取り組んできた,「事務処理を正確かつ迅速に処理するための手引き（事務提要）」の冊子からデジタル化への移行の取り組みについての発表。事務提要とはなにかというところから，デジタル化の発端，デジタル化作業の開始から協会ホームページに掲載するまでの経緯，掲載後の維持管理状況，宮城県会員及び全国の協会への事務提要に関するアンケート結果，そして今後よりよい事務提要にしていくためにはどのようにしていけばよいかを考察する。

（２）学校事務職員の課題と取り組み

奈良県立奈良高等学校　事務長　大平　隆造

奈良県立磯城野（しきの）高等学校　主査　西垣　恵美子

人事交流により学校事務職員に配置換え「学校ってどんな職場？どんな仕事してるの？」「不安を持って赴任したらやっぱり少人数でみんな忙しそう、誰に聞いたらいいの・・・」そんな悩みを少しでも軽減できるよう、事務職員協会が活動を始めました。臨時職員も多いため「学校職員とは」から始まり、１年間の仕事の流れをわかりやすくまとめたり、以前からあったマニュアルの整備を行う。専門部会での研修会を通してネットワーク作りを図る等、課題解決に取り組んでいます。

（３）いつかくる南海トラフ大地震に備えて

高知県立佐川高等学校　主事　江口　理香

高知県立高知海洋高等学校　主事　松野　盟

東日本大震災で想定外の被害を受けたことを知り、いつかくる南海トラフ大地震に対して、「人的被害を限りなくゼロ」を目指した備えをさらに確実にするため、学校の立地状況から地震の際に津波の被害が大きいと予想される高知海洋高等学校・須崎高等学校の２校の例を中心に各学校、高知県の地震に対する取り組みについて。

＜午後の部＞

１　基調講演

仮　題　　「悩める学校事務職員に贈る言葉」　～効率化するのは君だ～

講　師　　株式会社　佐々木常夫マネージメント・リサーチ

代表取締役　佐々木　常夫

２　対談・討議

テーマ　　「今ある業務を効率化して学校満足度を上げよう！」

～良い習慣は才能を超える～

対談者　　株式会社　佐々木常夫マネージメント・リサーチ

代表取締役　佐々木　常夫

佐賀県　情報業務・改革課　主　査　円城寺　雄介

佐賀県立小城高等学校　　主　査　吉田　　顕徳

３　問題提起

事務職員が抱える大きな問題の一つに、一人一人の事務職員への業務負担の増加が挙げられる。これは、国及び各自治体の財政の悪化及び社会保障等支出の増加により財政の健全化のためのコスト削減が緊急の課題になっている昨今において、職員数の削減や任用替等が行われ、また一方で学校経営への積極的な参画を要請されることで、細分化された各校務分掌における諸会議への出席等に伴い、労働力と時間が著しく乏しい状況下において発生してくる。このような状況下において、事務職員はサービスの質を保つだけでなく、さらなるサービスの向上を求められているのが現状である。

そこで、私たちに求められていることは業務のより一層の効率化を図り、さらなるサービスの質の向上を行うことだと言える。では「より一層の効率化」とはどういうことであるか。ほとんどの事務職員は、効率化と言えば「職員が削減されて、一人一人の仕事量が増えて忙しくなる」とか「予算が削減されて、学校運営に支障をきたす」と考える。それは本当だろうか。効率化とは無駄があるからその無駄をなくす。もともと無駄であった訳だから、効率化されても忙しくならないし、学校運営が困難になるわけでもない。そして、効率化は、公務員の立場ではなく、納税者から求められている。このことをまず、理解しなければならない。また、効率化は民間と公務員では目的が全く違う。民間は利益を上げるためである。景気が良くても悪くても、円安でも円高でも、どのような経営環境でも利益を確保できるようにするためである。公務員は、効率化を進めることにより、無駄をなくし、生まれた資源を、生徒や住民のために投入し、「教育目標の達成」あるいは、「住民サービスの向上」などを図るためである。しかし、目的は違ってもそれを達成するための手段には共通すべき点がある。

そこで、基調講演では、仮題「悩める学校事務職員に贈る言葉　～効率化するのは君だ～」で、企業の視点からの効率化と公共的業務からの効率化や学校事務職員のスタンディングポジションについて講演していただく。また、対談では講演を受けて、学校の内外から見た事務の効率化、そして、事務職員自身から見た効率化について議論し、参加者からも多くの意見、質問をいただきながら学校事務のあり方（意識、能力、行動、改善、効率化）について幅広く討議していく。

４　討議の３本柱

・学校現場における課題提示

・納税者から見た効率化と事務職員から見た効率化の違いについて考える

・効率化をどのようにマネジメントしていくか。

第３分科会　今日的課題への提言　― 多様な視点からの学校づくりを考える ―

＜午前の部＞

〇研究発表

（１）「事務室の今、そして未来への提言」

～より輝く事務室をめざして～

愛知県立衣台高等学校　主査　磯村　好史

愛知県立一宮商業高等学校　主査　奥村　裕規乃

愛知県立阿久比高等学校　主任　石黒　裕美

学校事務職員を取り巻く環境が大きく変化している今、事務職員は、何を考え、何に悩み、どのような工夫をしているのか。また、将来どのような展望をもっているのかについてアンケートを実施。アンケートの結果の分析により、事務室の現状を把握し、将来の事務室をより輝くものにするための提言をまとめた研究です。

（２）H26.8.20 広島市豪雨土砂災害と学校危機管理

広島県立三次青陵高等学校　事務長　深田　俊克

広島県立可部高等学校　総括事務長　岡河　太志

平成 26 年 8 月 20 日局地的な短時間大雨によって安佐北区可部，安佐南区八木・緑井地区等の住宅地後背の山が崩れ，同時多発的に大規模な土石流が発生した広島市豪雨土砂災害で，広島県立可部高等学校はグラントの陥没・法面土砂崩落等の被害が発生しました。この様な状況の中で避難所として地域住民被災者を受け入れました。この研究発表は，学校の災害時に於いて教職員がどの様に行動して，この危機に対応したのかを報告するものです。

＜午前・午後の部＞

１　班別討議

テーマ　仮題　「新しい高等学校等就学支援金制度等に関する実務探求」
～情報共有・共通理解により効果的かつ効率的な事務処理を探る～

文部科学省講評　文部科学省初等中等教育局財務課　高校修学支援室　担当職員

２　問題提起

平成２６年４月、新しい高等学校等就学支援金制度及び高校生等奨学給付金制度が開始され、同時に授業料徴収事務が復活した。

これら修学支援に関する制度等の開始に伴い保護者への制度周知、申請書類の徴取、集計、認定並びに授業料納入状況の掌握、未納者への督促など多岐に及んでいる多様な事務処理を実施しなければならない。

さらに、適正な支援を継続的に行うために家庭環境の把握にも努める必要がある。新制度開始から一年が経過し、事務職員には実務経験も備わってはきたが、対象学年が増えていくことにより事務量は増えていく。

各校において様々な取り組みがなされており、認定決定・申請却下、受給資格消滅などの処理に学校にある生徒データを活用するなどし、効果的かつ効率的な事務処理を模索し実現を図っている。

今回の班別討議において、保護者への制度説明や手続き周知の過程、あるいは会計事務執行において行った工夫、取り組み及びその効果などについて情報を提供しあい共有するとともに、理解を深め、自身の取り組みに活かし一層の効果的かつ効率的な事務処理を探る。現在抱えている課題について改善案を探究し参考となる事務処理への気づきを深める機会とする。

文部科学省の担当課より招いた講師に、事務職員が実務を遂行する中での現状と課題、効果的な事務処理について、生の声を届ける機会とする。

班別討議の後は、第３分科会参加者を一堂に会し各班代表者を中心に他班とも意見交換することでより多くの事例を探求するとともに、文部科学省担当から講評をいただく。

３　討議の３本の柱

・各校が施した取組の情報共有
・新制度施行に伴う共通の疑問、要望について意見交換、改善案探求
・文部科学省担当課による講評

佐賀市文化会館
提供：公益法人 佐賀市文化振興財団　佐賀市文化会館

全国大会会場案内　佐賀市文化会館

大ホール

中ホール

提供：公益法人 佐賀市文化振興財団　佐賀市文化会館

本 部 活 動 報 告

●常任理事会（東京　小山台会館）
　１／９　　全国理事会
　　佐賀大会分科会運営等について
●佐賀大会合同打合せ会（佐賀県佐賀市）
　２／１６　会場視察（佐賀市文化会館　他）
　　第２回佐賀大会合同打合せ会

編　集　後　記

第６８回全国大会は佐賀県佐賀市「佐賀市文化会館」を会場に平成２７年７月２３日～２４日に開催されます。

開催案内は、平成２７年３月１６日付けで協会ＨＰに掲載されます。大会日程、分科会構成表並びに参加申込書等ダウンロードが可能です。

今回の増刊号は、分科会の概要についてお知らせいたします。研究発表のコメントも掲載しましたので大会参加希望者が分科会を選択する際の参考になれば幸いです。

増刊号は、佐賀大会開催通知と併せて全国協会ＨＰにアップいたしました。

次回は大会特集号を７月に発行する予定です。

◎「協会ニュース」についてのお問い合わせ、ご連絡は次の広報部編集担当まで

群馬県立大泉高等学校　菊地
ＴＥＬ　０２７６－６２－３５６４
ＦＡＸ　０２７６－６２－７３１８
Ｅ－mail　kiku-ta@pref.gunma.lg.jp

千葉県立千城台高等学校　角田
ＴＥＬ　０４３－２３６－０１６１
ＦＡＸ　０４３－２３６－１６４０
Ｅ－mail　r.tsnd2@pref.chiba.lg.jp